



【研究仮説】

算数科を通して、基本的な学び方を定着させ、児童の実態を把握した上で既習の基礎的・基本的な知識・技能をもとに、交流時に自分の考えと同じ部分や違う部分を聞き分けてその部分をもう一度表現する活動を取り入れ、補充的な問題を充実させた指導を継続して行えば、主体的・対話的で深い学びができる児童の育成につながる。

研究内容 1	研究内容 2
<p>単位時間の学習内容の定着につながる授業の工夫</p> <p>具体的な方途</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 本時において児童にどのような力をつけさせるかを意識した課題設定とまとめの明確化 ② <u>自分の考えと同じ部分や違う部分を仲間に伝えたり振り返ったりする交流の在り方</u> ③ 授業内容の習熟や発展問題及び生活に活用する補充問題の充実 ④ <u>自主的・継続的に取り組み、補充・定着・発展的な学習を身につける家庭学習の在り方</u> 	<p>主体的に学ぶ集団づくりの工夫</p> <p>具体的な方途</p> <ol style="list-style-type: none"> ① <u>児童の考えを把握し、対話的な学びの構想をたてる机列表の使用工夫</u> ② 交流の場面で、学んだことを仲間に伝えたり、問題解決のための「キーワード」を用いて自分の言葉で話したりできる指導 ③ ペアや全体交流後に、仲間の意見をノートに書き加える指導 ④ <u>自分の伸びや仲間のよさを確認・交流する終末の在り方</u>